

第4回鈴鹿市総合計画審議会 議事要点録

■日 時：令和5年6月2日（金） 13：00～14：30

■場 所：鈴鹿市役所 本館6階 庁議室及びオンライン

■出席者：・委員15人（【オンライン】と記載していない委員は会場出席）

（敬称略） 磯部 友彦 （鈴鹿市都市計画審議会 会長）【オンライン】
伊藤 京子 （鈴鹿市社会福祉協議会 次長）
岡田 篤典 （鈴鹿市PTA連合会 顧問）
尾崎 郁夫 （鈴鹿市医師会 会長）【オンライン】
小田 栄次郎 （ホンダモビリティランド株式会社
取締役 鈴鹿サーキット総支配人）
田中 彩子 （鈴鹿商工会議所 会頭）
富井 利博 （鈴鹿市スポーツ協会 事務局長）
西村 伸吾 （鈴鹿地区労働者福祉協議会 会長）
長谷川 玲子 （鈴鹿市男女共同参画審議会 委員）
服部 高明 （鈴鹿市私立幼稚園協会 会長）【オンライン】
古戸 沙弥 （公募市民委員）
平子 伸 （鈴鹿農業協同組合 専務理事）【オンライン】
松嵜 康博 （鈴鹿市教育委員会 委員）
松田 裕子 （三重大学 学長補佐）
森 隆裕 （三重県デジタル社会推進局 デジタル改革推進課長）

※欠席5人

杉山 範子 （鈴鹿市環境審議会 委員）
水木 千春 （鈴鹿市防災会議 委員）
水野 克則 （鈴鹿市自治会連合会 会長）
吉崎 美穂 （鈴鹿国際交流協会 専務理事）
矢田 和夫 （鈴鹿市漁業協同組合 代表理事組合長）

・事務局

政策経営部長 奥西 真哉
参事兼総合政策課長 岩寄 好洋
総合政策課副参事兼政策グループリーダー 岸本 領介
総合政策課政策グループ副主幹 志村 祥一
総合政策課政策グループ副主査 大河内 雅之

■傍 聴 者：0人

■内 容：以下のとおり

1 開 会

- ・ 事務局から開会の挨拶。

2 議事

(1) 鈴鹿市総合計画2031基本構想素案について

【事務局】

- ・ 資料2に基づき説明。

【小田委員】

- ・ 23ページ、「評価の仕組み」について、第3回審議会において、評価は、4年後や市民に限らず実施してほしいと述べたが、SNSなどの活用や、成果指標・活動指標に対する毎年度の検証といった記載をしていただき、意図を汲んでいただけていると思う。
- ・ 一方で、骨子案では、ビジョン5の「みんなの目標」に、「国内外への情報発信により、地域資源を生かした観光のにぎわい、地域での経済効果が生まれている。」という目標が示されていたが、素案では消えてしまっている。行政や企業だけでなく、市民もSNSなどを通じて、世界に対して鈴鹿のブランドや価値を伝えていくことが、ビジョン5のビジョン名である、「にぎわいや交流が生まれるまち」につながっていると考えているため、記載を再検討してほしい。

【事務局】

- ・ 庁内の議論において、情報発信は全ての分野で行うべきことであるため、特定の分野に記載するのは不適切だという考え方で修正をしたが、その結果、世界に発信していく、という考え方が抜けてしまったため、再検討する。

【伊藤委員】

- ・ 10ページ、ビジョン2の文章について、「地域でのつながりが更に希薄化し、孤独・孤立などの課題が浮き彫りになりました。」と記載しているが、社会福祉協議会においては、ヤングケアラーやコロナ禍による生活困窮が顕著になっており、この点も記載し

てほしい。

- ・ また、行政や社会福祉協議会ではカバーすることができないところを、本市では、まちづくり協議会においてカバーしてもらっており、そのことを意識することで、地域力の向上につながると考えているため、記載を検討してほしい。

【事務局】

- ・ 1点目、ヤングケアラーについて、核家族化や共働き世帯の増加などの社会情勢の変化により、子どもに家事などを強いる状況になっている社会問題について、8ページ、ビジョン1においても書いたように、子どもの権利保障は大事なことでと認識し、本市でも取組を進められないか検討しているため、記載について、関係部局と調整を行う。
- ・ 2点目の御意見について、自助・共助・公助の取組における共助に関する取組の記載が不足している、ということかと思うので、担当部局と調整する。

【長谷川委員】

- ・ 4ページ、三層構造のピラミッド図について、基本計画と実行計画が前期分の年数しか記載していないが良いか。
- ・ また、骨子案から素案になって、ビジョンの文章や「みんなの目標」が変更されているが、こういった経緯があったか説明してほしい。

【事務局】

- ・ 1点目、ピラミッド図について、記載漏れのため記載する。
- ・ 2点目、変更の経緯について、第3回審議会後に市民委員会も開催し、「みんなの目標」が市民感覚に近いものになっているのか、という観点で意見をいただいた。その結果を元に、行政において検討を進めてきたものである。例えば、「みんなの目標」のスケール感であったり、各ビジョンにおける数であったりについて調整し、今の状態になっている。

【松嶋委員】

- ・ 6ページ、将来都市像の説明文に記載している「鈴鹿らしさ」が具体的にどのようなものなのか分かりにくい。本市に住み続けたい、移住したいと思う素晴らしいところを、端的に説明できると、「鈴鹿市らしさ」が表現できるのではないか。
- ・ 8ページ、ビジョン1の子どもを取り巻く環境について、人口減少社会というこれまで経験したことのない状況において、対症療法的ではない政策を進めるためにも、言葉の表現として抜本的な、多面的に、多角的にといった力強い表現で課題を表現してほしい。

【事務局】

- ・ 1点目、「鈴鹿らしさ」について、既存のものだけでなく、新たに創造していくことを意識していたため、具体的にはお示ししていなかったが、どういうものを鈴鹿らしいと考えているかについて、記載を検討する。
- ・ 2点目、ビジョン1の文章の表現について、総合計画の策定に合わせて、教育大綱の改定を行う予定だが、この2つのつながりを意識しながら記載の修正を担当部局と検討する。

【松田会長】

- ・ 松嶋委員は、「鈴鹿らしさ」について、例えばどのようなイメージを持っているのか。

【松嶋委員】

- ・ 住んで、地域とのつながりが生まれていく中で初めて感じることはなるが、地域コミュニティがきちんと存立しており、その中で感じる便利さや温かさといったものが「鈴鹿らしさ」になるのではないかと考えている。

【松田会長】

- ・ 小田委員は、鈴鹿の中に住む人だけでなく、世界中から訪れるモータースポーツファン等の外の人に対して、どのような「鈴鹿らしさ」を伝えたいと考えているか。

【小田委員】

- ・ 観光において、地域の皆様の御理解があって、お客様をお迎えできると考えている。そういった理由から、行政と事業者だけでなく、地域全ての協力でお客様をお迎えすることが大事だと考えている。「鈴鹿らしさ」というと、本市には「さあ、きつともつと鈴鹿。海あり、山あり、匠の技あり」というキャッチコピーがある。これは本市の良さを上手に表現できている、と感じており、単に文章で表現できるものではなく、ビジュアルなどを活用していくのも重要ではないかと考えている。

【松田会長】

- ・ 田中委員は、鈴鹿商工会議所の会頭として、鈴鹿の魅力や「鈴鹿らしさ」をどのように考えているのか。

【田中委員】

- ・ 私は鈴鹿で生まれ育っているため、これが当たり前だと思っているが、商工会議所において、様々な市外の方と接する中で良く聞くのが、車があれば、にはなるのですが、緑が綺麗で住みやすい、人が優しいというお話を、仕事の都合で色々な地域を回っている方も言っています。

- ・ 別件となるが、10ページ、ビジョン2の文章について、「後期高齢者人口は増加することも予測されています。」とあるが、統計上、増加することははっきりしているので、曖昧に書くべきではないと考えている。
- ・ また、総合計画に対する意見ではないが、医療や福祉のサービスが安定的に提供され、といった記載があるが、今年は良くなっているようだが、去年まで、介護保険の認定が申請から長い期間待たされたりしていたようで、医療や福祉のサービスを安定して受けるためにも、介護保険の認定手続などは迅速にするよう担当部局に伝えてほしい。

【事務局】

- ・ 1点目、ビジョン2の文章表現について、委員の言うとおりであるため、文章の修正を検討する。
- ・ 2点目、介護保険の認定手続について、現状を把握できていないが、できることはスピード感を持ってやっていくことが非常に大事だと考えているため、担当部局に意見として伝えさせてもらう。

【森委員】

- ・ 19ページ、ビジョン6の文章について、この文章では、「デジタル技術の活用」が業務の効率化にのみにかかっているように読めるが、住民の利便性向上や地域課題の解決にも活用されるものだと思うため、表現を工夫してほしい。

【事務局】

- ・ 本市としても森委員と同じ考えのため、表現を見直す。

【富井委員】

- ・ 計画に対する意見ではなく、皆様に紹介したい現状をお伝えする。ビジョン1に「スポーツに触れ親しむ機会を充実」とあるが、小中学生にとって、本市はスポーツへ接する機会に恵まれており、本市を拠点とするラグビー、ハンドボール、サッカーのプロチームが、昨年度で言えば、60回ぐらい小中学校で出前授業をしていただいている。
- ・ また、本市には馬術場がある関係で、馬術協会が各学校に出向いて、馬と触れ合う機会を設けていただいている。
- ・ さらに、今年度からインドアホッケーや野球チームからも小中学校での出前授業という形で、子どもたちにスポーツと触れ合う機会を設けてもらう予定がある。

(2) 鈴鹿市総合計画2031基本計画の構成について

【事務局】

- ・ 資料３－１及び資料３－２に基づき説明。

【長谷川委員】

- ・ 「みんなの取組」は面白い内容だと思う。今までの総合計画では、行政がすることだけを網羅して記載されていたが、市民と行政が一体となって取り組んでいく姿勢が表れている。ただ、市民に取り組んでもらうためには、総合計画を市民に知ってもらう必要がある。行政でも、色々な手段で市民に知ってもらう機会を設けると思うが、委員も各組織において、周知する機会を設けていければより良くなると考えている。
- ・ また、市民が計画に参加している実感を高めるためのアイデアとして、例えば、「みんなの取組」をどれくらい達成できたかといった自己採点をするなどの取組も検討してほしい。

【事務局】

- ・ できる限り多くの方と目標を共有することが非常に大事だと事務局としても考えている。例えば、計画全てを記載した冊子は、分厚くて知ってもらうのに適さないため、概要版みたいなものは当然作成するとして、色々な媒体でも「＃最高に住みやすいまち」と併せてプロモーション活動をしたり、少し角度を変えて、SDGsのワークショップと合わせて周知したり、そういった様々な切り口で、市民が計画への参加を実感できるように工夫していきたいと考えている。

【西村委員】

- ・ 情報発信について、媒体を通じてでは伝わらないことが多くあると考えている。できるだけ対面で伝える機会を多く設けてほしい。労働組合は１８歳から６５歳までの幅広い市民が参加していて、年２回は勉強会を行っているため、こういった場を活用してもらいたい。

【事務局】

- ・ 新型コロナウイルスが５類に引き下げられ、対面での対話もやりやすくなってきているため、機会をぜひ活用させていただきたい。

【磯部委員】

- ・ 基本構想において、人口減少対策とDXへの取組が重要だと記載しているが、基本施策でのそれらの取組を表すのがチェックだけでは、具体的にどのように進めていくのかが分からないのではないかな。

【事務局】

- ・ 本市では、今まで総合計画と総合戦略を別で策定していたが、そのことで、人口減少対策への取組方針が分かりにくくなっていたと考えている。次期総合計画において、地方版総合戦略、国で言うデジタル田園都市国家構想総合戦略と統合することで、総合計画においても人口減少対策とDXに取り組むことを明確にする。併せて、基本計画において、基本計画期間である4年間で取り組む、具体的な取組を記載していく。

【古戸委員】

- ・ 「みんなの取組」について、文章の語尾が「育成します」や「推進します」ではなく、「育てましょう」や「進めましょう」となっているため、市民と一緒に進めていきたいという意図が伝わりやすいと感じる。
- ・ 概要版について、外国人市民向けでよく作られる、やさしい日本語版も用意できると、やさしい日本語版を活用して小中学生にも伝えやすいのではないかなと思う。

【松田会長】

- ・ 古戸委員は、若者が市政や総合計画に関心を持つにはどのような媒体で周知を進めるのが良いと思うか。

【古戸委員】

- ・ しっかりと理解をしてもらうには対面が一番良いと考えているが、わざわざ説明を聞きに来る若者はほとんどいないと思うので、単にPDF化した資料を市ホームページに掲載するだけではなく、短い動画や端的に分かるWEBサイトなど、時間がない中でも興味を惹くコンテンツを準備するのが良いと思う。

【事務局】

- ・ 頂いたアイデアを踏まえ、できる限り多くの市民に認識してもらえる手法・内容を検討したい。

【松嶋委員】

- ・ 基本施策において、ビジョンをまたいだ他の基本施策や主な取組との結びつきを表すことはできないか。例えば、子どもという観点で総合計画を見た時に、ビジョン1だけではなく、ビジョン2にも子どもの医療費などで子どもに関する施策が登場すると思うが、横断的に色々な切り口で総合計画を見せることはできないか。この見せ方によって、行政としても、縦割りじゃない連携が生まれるのではないかなと思う。

【事務局】

- ・ 別の見せ方をしていくことは、横の連携を強めるためにも非常に大事なことだと思う。一度、内部でもしっかり検討したい。

【松田会長】

- ・ 人口減少対策とSDGsを前面に出していくのであれば、分野による縦割り以外の見せ方も検討する方が良いと思うが、どのような工夫が可能だろうか。

【事務局】

- ・ 現時点で検討していることとして、資料編になるかと思うが、逆引きのような形で人口減少対策やSDGsに関連する施策を見せていくことも考えている。例えば、SDGsのゴールも達成するために行う施策は、直接的なものもあれば、間接的なものもあり、行政の分野分けで整理すると、全く別の施策になることもあるが、色々な取組を通じてゴールを目指していることを知ってもらうことが大事だと考えている。

【田中委員】

- ・ SDGsの17のゴールは全て、行政の施策のいずれかにつながっている。SDGsとの関連付けはこのことを意識して進めてほしい。

【事務局】

- ・ 委員の言うとおり、作業中ではあるが、おそらく、17のゴール全てと関連があると考えている。また、計画としてお示しするのは、「みんなの目標」とSDGsの関連性だが、実務では、基本施策とSDGsの関連付けを行っており、そのことで、自分の業務がSDGsにどのように貢献するか、職員に意識させることも狙っている。

【松田会長】

- ・ 次回はゴール間のバランスも見たいと考えている。

【岡田委員】

- ・ 次期総合計画の前期基本計画が終わる頃には、現在の中学3年生が18歳になっていることを踏まえると、総合計画の周知は中学生や高校生にもしっかり進めてほしい。
- ・ SDGsについて、ゴールに共感はできても、ターゲットが身近に感じられないため、実際の行動に結び付かないのではないかと考えている。鈴鹿市版ターゲットを作るなど、市民がSDGsに向けた取組を身近に感じられるような進め方を考えてほしい。

【事務局】

- ・ 若者向けに総合計画を周知していくイベントなどは実施したいと考えている。
- ・ S D G s は「みんなの取組」の周知と合わせて考え方を伝えていきたい。

【松田会長】

- ・ 本日は、基本計画の構成イメージを説明していただいたが、ポイントは、「みんなの目標」を、どれだけ分かりやすく打ち出せるかにあると思う。
- ・ 市民が自分事としてとらえ、総合計画に自発的にコミットメントしていく意識を醸成できると良い。
- ・ ただ、市民と一緒にできる取組として打ち出した「みんなの取組」が、市民が主体となって進められているかを、どのように測り、進行管理をしていくかが、これからの課題になる。
- ・ また、色々な考え方の市民がいる中で、行政に押し付けられたと感じる方や、逆にこれだけやっていれば十分だと考える方に対して、行政と協力してより良い鈴鹿市を目指すにはどうすれば良いのかを考えてもらえるような内容になることを期待している。

(3) 連絡事項について

【事務局】

- ・ 次回は基本計画について議論していただくこととなるが、資料としては100ページを超えるものとなるため、各委員の関心が高いところを中心にお目通しいただき、その点について、質問や意見などをいただきたいと考えている。ただ、資料だけでは本市の考え方をお伝えしきれないこともあるため、各部局長が出席の上、1、2分でポイントや思いをお伝えしたいと考えている。

以上